

新学習指導要領に対応した金融経済教育

— 高校生のための金融リテラシー —

1 はじめに

高等学校学習指導要領の改訂により、金融経済教育の内容が拡充されている。成人年齢が引き下がったことにより、何ができるのか疑問に感じたり、不安に思ったりする生徒も見られる。そこで、生徒が将来安心して生活できるようにするために金融経済教育についての知識と理解を深めようと考え、このテーマを設定した。

2 研修計画

- (1) 令和4年5月20日(金) 研究協議・テーマの決定
- (2) 令和4年8月23日(火) 研修会〔会場：千葉県立長生高等学校 被服室〕
講師：金融庁 総合政策局 総合政策課 亀本 雅史 氏

3 研修内容

(1) 第1部 金融リテラシーと資産形成

①金融経済教育の重要性と金融リテラシー

- ア 一人暮らしをしたり、クレジットカードを使う時、また、将来のために資産を増やしたいと思った時など多くの場面でお金の知識・判断力（リテラシー）が必要である。
- イ ライフスタイルが多様化していて、自分の生き方に合わせてお金の管理をしていく時代である。
- ウ 生きていく上で必要な金融に関するリテラシーの4つの要素
・家計管理 ・生活設計 ・金融商品の選択、金融経済の理解 ・外部知見の活用

②人生100年時代と資産形成が求められる背景

- ア 家計管理をしっかりと行い、貯蓄する。
- イ 超低金利のもとでは、預貯金でお金は増えない。
- ウ 物価上昇（インフレ）すると、貯蓄の価値が目減りする可能性がある。
- エ ライフプランの選択肢が多様化し、一人ひとりが自由に生きる時代である。

③資産形成とは

ア 預金・貯金

銀行等にお金を預けること。一般的に収益性は低い、安全性・流動性は最も高い。

イ 債券

国や会社にお金を貸すこと。債権の安全性は、国債は高く、社債は発行企業次第。一般的に流動性は低く、収益性は預金より高く、株式より低い。

ウ 株式

購入者（株主）は会社の一部を所有することになる。安全性は低い、高い収益性が期待できる。流動性は高い。

エ 投資信託

多くの人から集めたお金を1つにまとめて大きな資金にし、株式や債券などに投資する仕組み。収益性、安全性は投資対象次第。流動性は高い。

（2）第2部 高校生のための金融リテラシー講座

金融経済教育 高校授業副教材

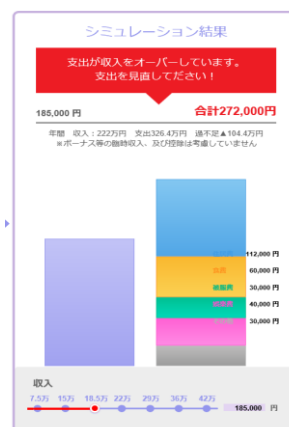
私たちの生活にかかわるお金について勉強してみよう！



金融庁のホームページにも掲載されている4種類のシミュレーターを使用して、シミュレーション体験を行った。研修会参加者は、自身のスマートフォンやタブレット端末を用いた。

[家計管理シミュレーター]

住居費、通信費、食費、交通費、被服費、教養娯楽費、貯蓄、収入の設定をすると、結果が出た。それぞれの項目の金額が変わるとグラフの形も変わっていく。右図はシミュレーション結果の例である。左が収入で右が支出であり、この結果を見ることによって家計管理が上手くできているか考えることができる。設定金額を変えることによって、様々な暮らし方についても考えることができた。



4 考察

シミュレーション体験を行いグループで話し合わせることにより、様々な暮らし方について理解させることができると考える。将来、必ず投資をしなければいけないというのではなく、いつまでにどれくらいお金が必要か、そのためにどう準備していけば良いのか考えさせるのが大事であることがわかった。

5 おわりに

今回の研修により、金融経済教育の重要性がよくわかり、資産形成の知識も深まった。今後は生徒が将来のライフプランに合った家計管理や資産形成ができるように授業づくりに励んでいきたい。

最後に、この研修の準備や講義にご尽力いただき、質問にも丁寧に答えてくださった金融庁の亀本氏に深く感謝申し上げます。